

がん登録 2018年症例報告

1.はじめに

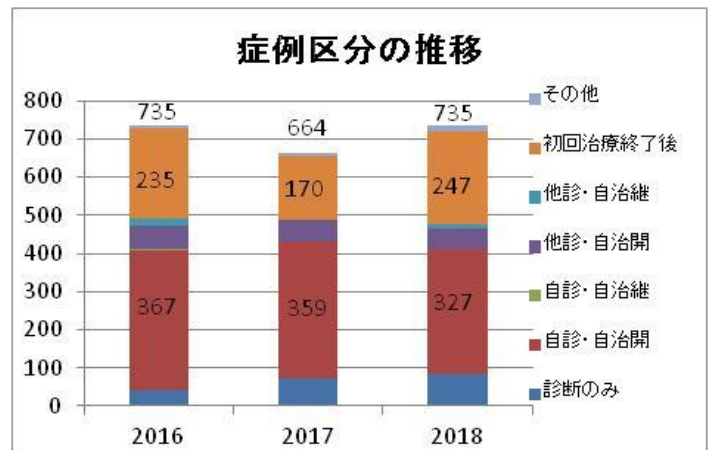
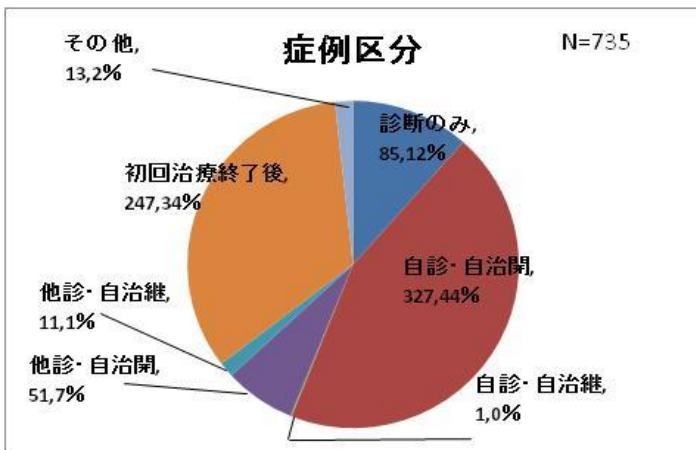
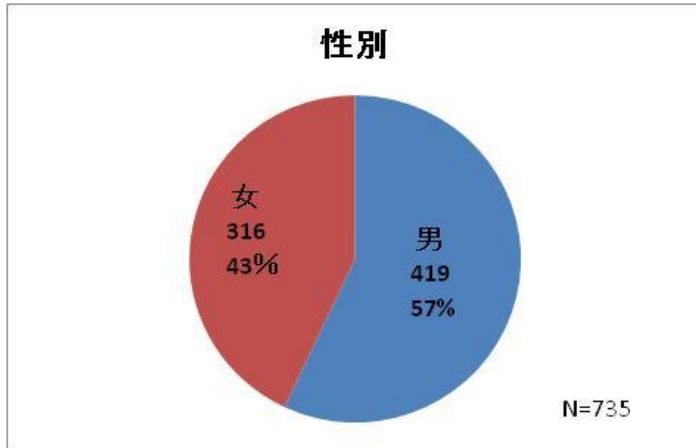
がん登録とは、国のがん対策の基礎となる、がん患者数、罹患率、生存率、治療効果などを把握することを目的に、がん治療のために病院を受診した患者さんの治療内容、治療効果、予後などの情報を集め、把握・分析する仕組みです。患者さんへの的確な情報提供や、次のがん対策のための基礎資料としてがん登録は必要不可欠なものです。国が指定する登録様式(がん診療連携拠点病院院内がん登録標準登録様式(2016年版修正版))に準拠して、院内がん登録を実施することが義務付けられています。

2. 集計表について

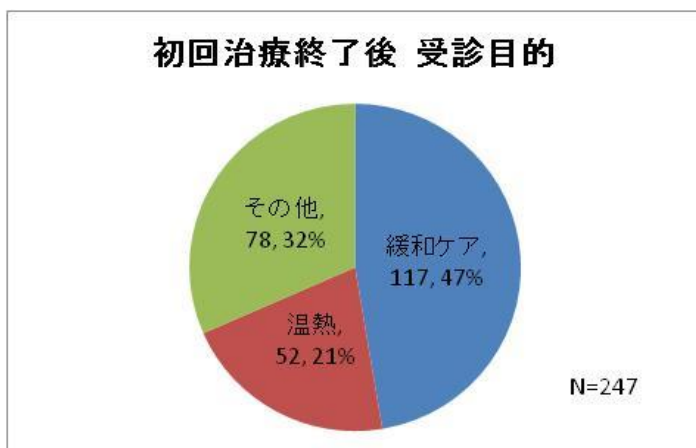
この集計表は、国が指定する登録様式に準拠して登録されたデータを使用して、JR広島病院の部位別のがんの件数や部位別のがんの拡がりごとの治療法を示しています。

院内がん登録標準登録様式 2016年版に基づき登録を行いました。

1腫瘍1登録、入院・外来を問わず、自施設において、当該腫瘍について初診し、診断及び治療等の対象となった腫瘍です。

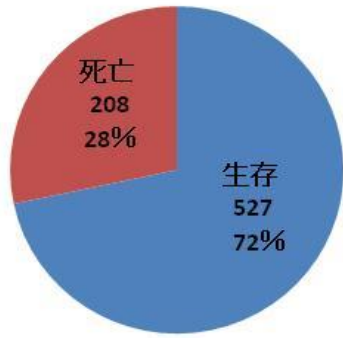


2017年症例に比べ、登録件数が増加した。初回治療終了後に当院を受診する症例が増加している。



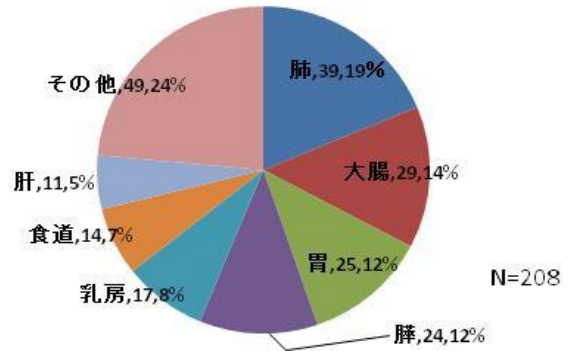
初回治療終了後当院受診目的として、2016年症例・2017年症例に比べ、緩和ケア及びその他の件数が増加したが、温熱目的の受診件数は減少傾向である。

生存状況



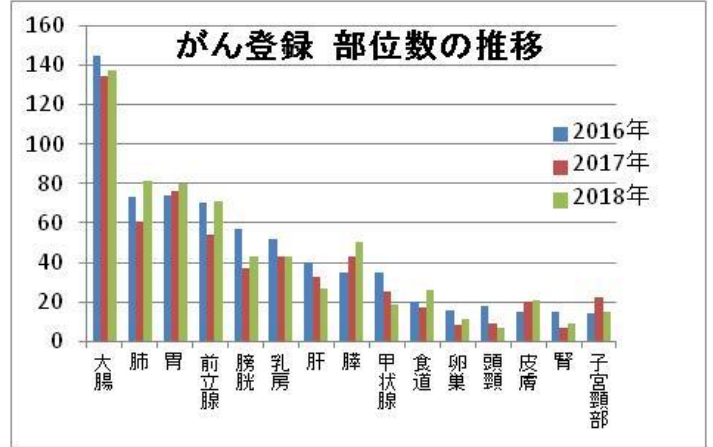
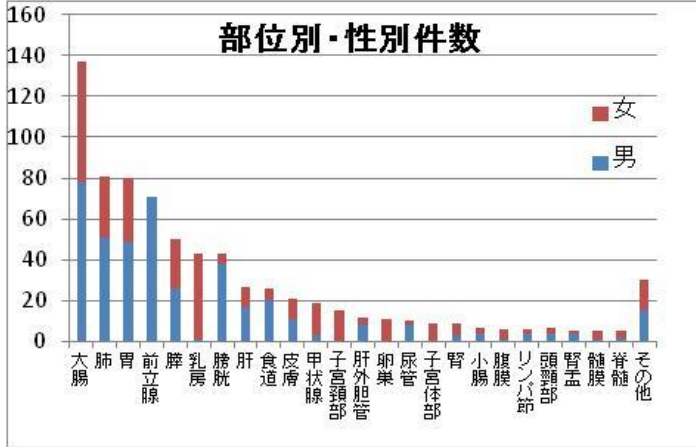
N=735

がん登録死亡患者 部位別



N=208

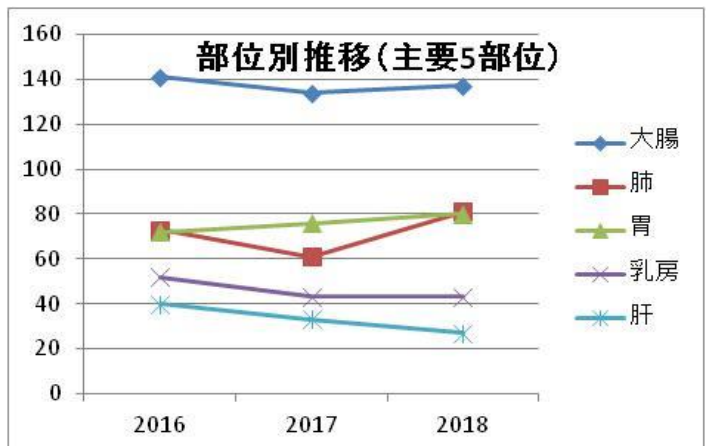
死亡患者の部位別では、2016年症例より死因第1位と第2位に変動はなく、2018年症例で初めて乳房が死因第5位に入った。



部位数の傾向として、2017年症例は肺及び前立腺の件数が減少していたが、2018年症例が増加している。
一方で、肝及び甲状腺の症例件数が減少傾向にあり、膵及び皮膚の症例件数は増加傾向にある。

部位別病期分類 上位10位

	病期							計
	0	I	II	III	IV	不明	該当せず	
大腸	24	24	25	21	25	16	2	137
肺	0	15	4	13	32	17	0	81
胃	0	32	5	7	28	5	3	80
前立腺	0	29	22	5	11	4	0	71
膵	0	3	5	4	20	18	0	50
乳房	2	3	11	3	8	16	0	43
膀胱	21	1	0	2	1	18	0	43
肝	0	10	3	1	4	8	1	27
食道	3	6	3	4	6	4	0	26
皮膚	8	6	4	2	1	0	0	21



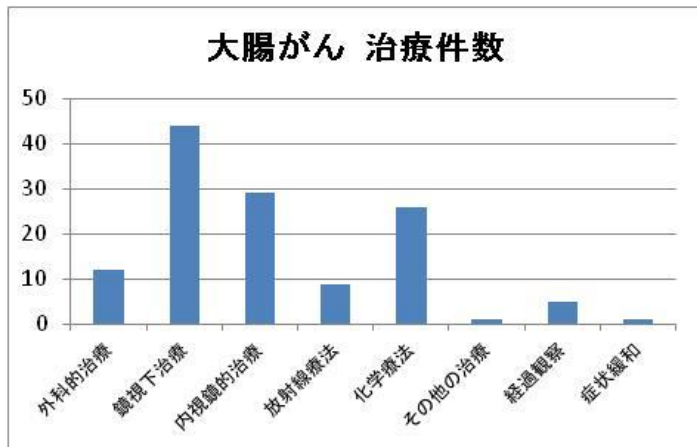
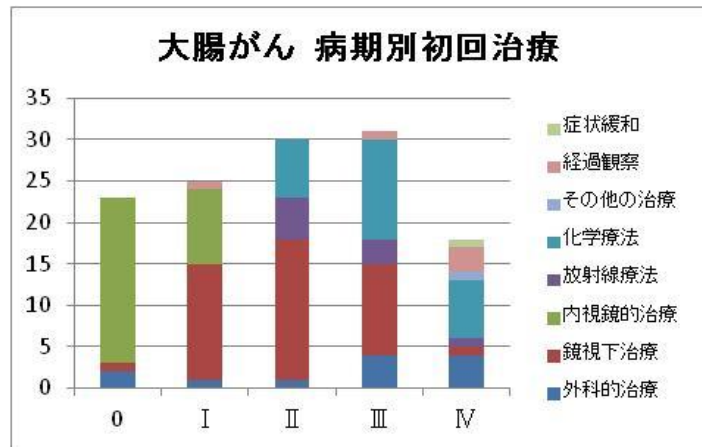
部位別病期分類件数では第8位の肝まで2016年症例・2017年症例と同様に上位を占めている。

院内がん登録における治療の定義

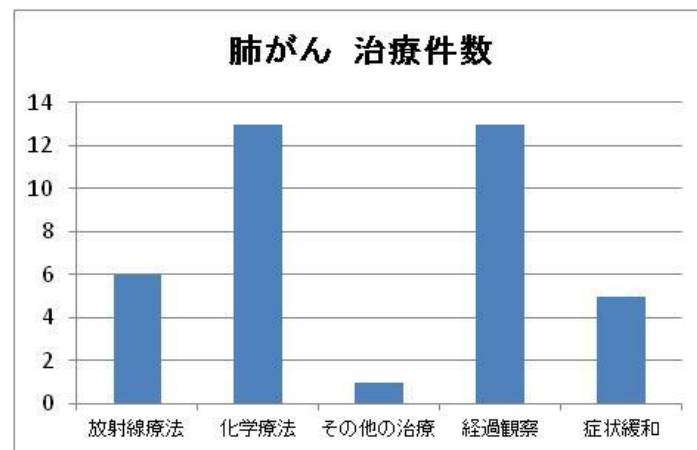
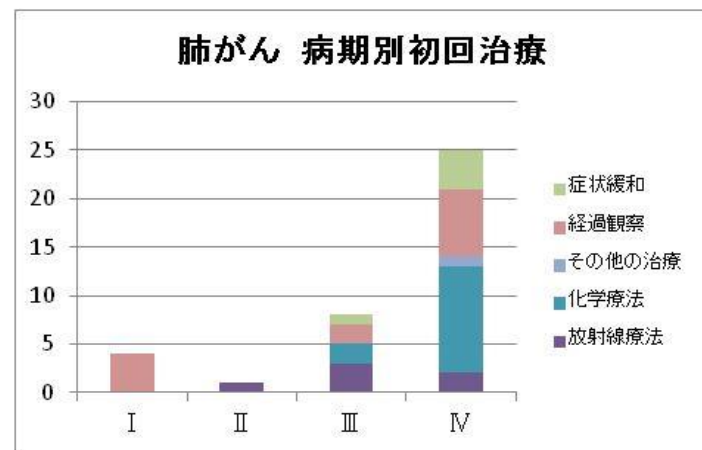
当該腫瘍の縮小・切除を意図したがん組織に対する治療のうち、当該腫瘍に関する最初の診断に引き続き行われた、腫瘍に対する治療とします。

- ・外科的治療とは、開腹手術によるがんを切除する治療
- ・鏡視下治療とは、胸腔鏡下・腹腔鏡下手術によりがんを切除する治療
- ・内視鏡治療とは、体表に切開を全く加えることなく内視鏡下にごんを切除する治療

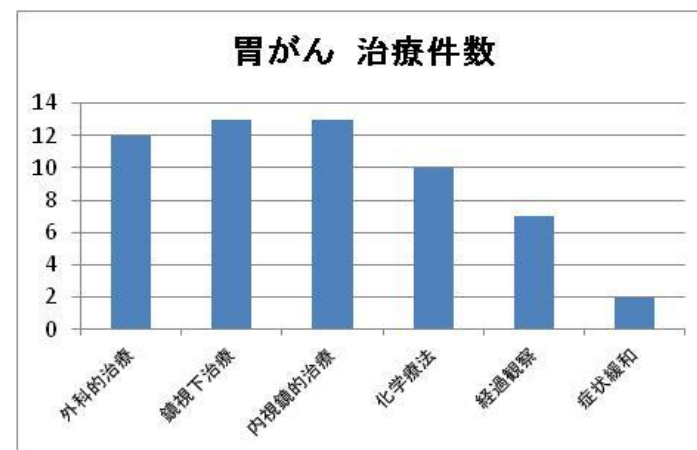
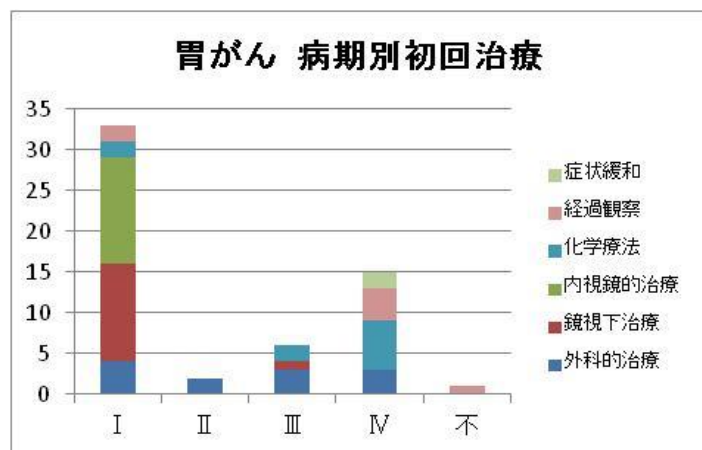
症例区分 自施設初回治療実施症例・病期別治療と治療件数



病期分類の傾向は2017年症例とほとんど変わらないが、治療方法が2017年症例に比べ鏡視下治療が増加し、内視鏡的治療が減少している。

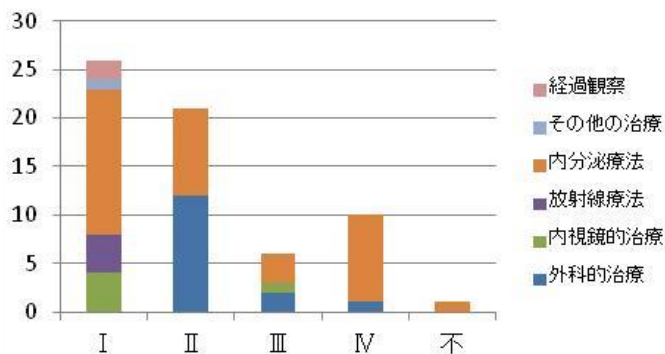


当院では、呼吸器外科手術を行っていません。切除不能肺がんの化学療法・HPRACでの放射線治療、および緩和ケアを担当している。
肺がんは、2017年症例に比べ登録件数が増加傾向にあるが、初回治療終了後当院受診件数が増加している。

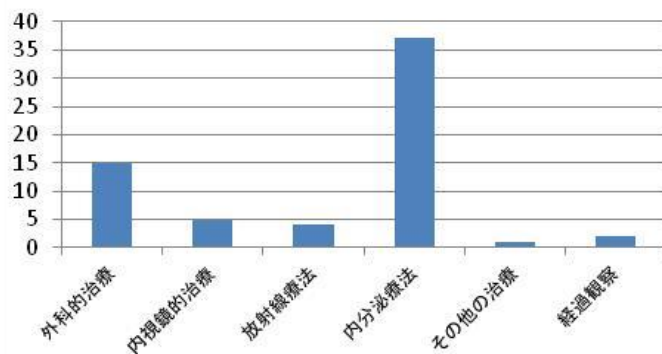


胃がん病期分類の傾向は2017年症例とほとんど変わらないが、治療方法では昨年に比べ鏡視下治療の件数が増加し、内視鏡的治療件数と変わらない件数となっている。

前立腺がん 病期別初回治療

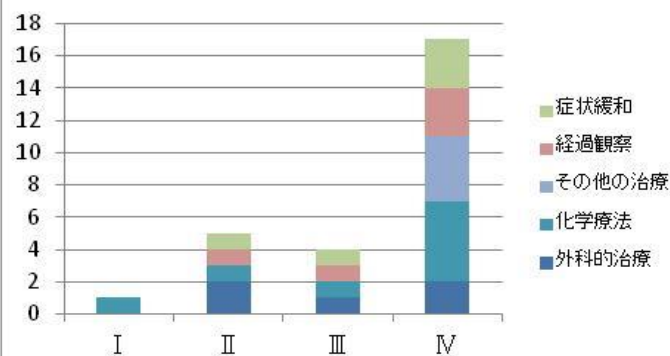


前立腺がん 治療件数

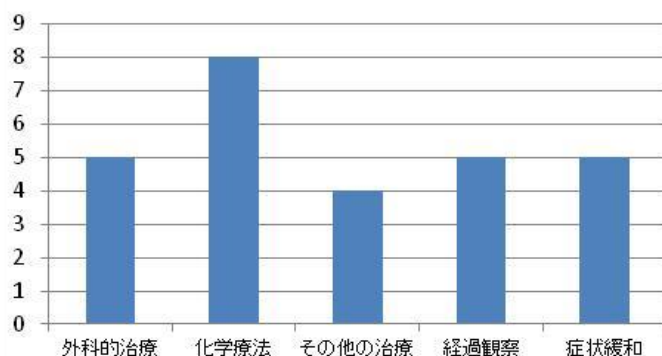


前立腺がんの病期分類は、2016年症例・2017年症例の傾向とあまり変わらないが、放射線療法の件数が減少している。

膵がん 病期別初回治療

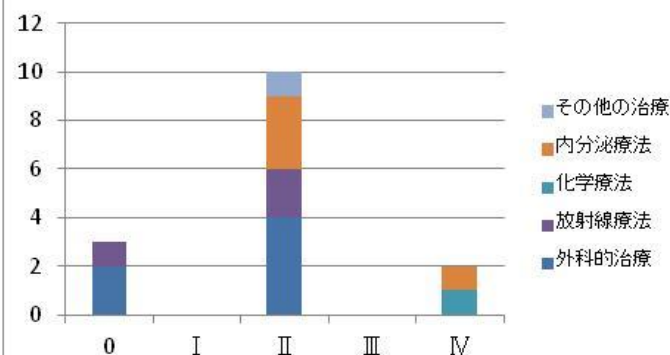


膵がん 治療件数

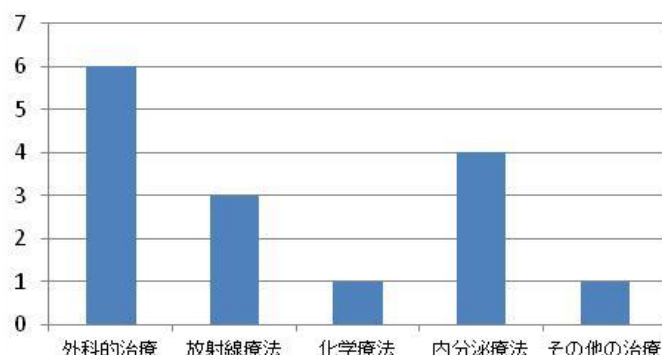


膵がんの登録件数は増加傾向にあるが、2016年症例から比較しても早期発見が難しいためか、進行している状態で発見される症例が多い。

乳がん 病期別初回治療

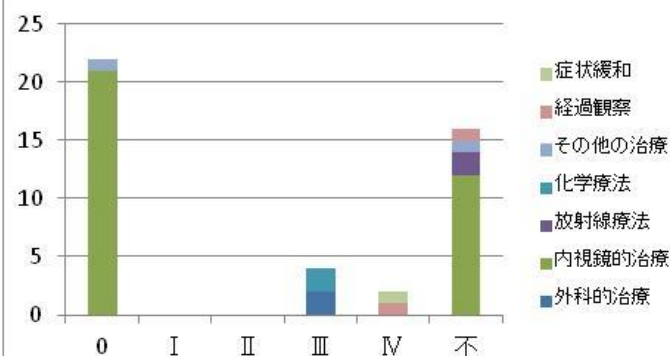


乳がん 治療件数

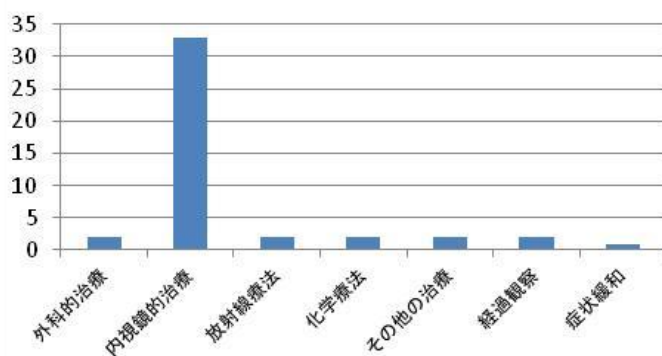


乳がんは、2016年・2017年症例では病期間わらず化学療法を行っていたが、2018年症例では、IV期のみ化学療法を行っている。

膀胱がん 病期別初回治療

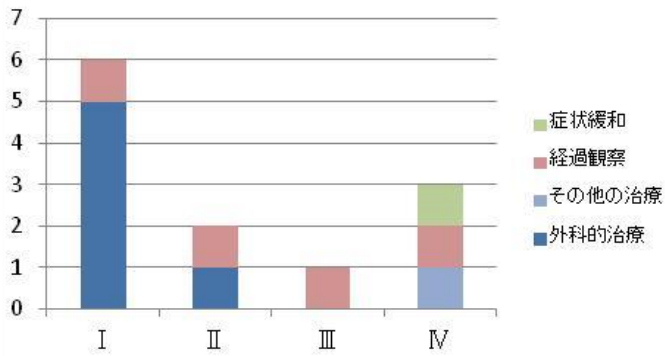


膀胱がん 治療件数

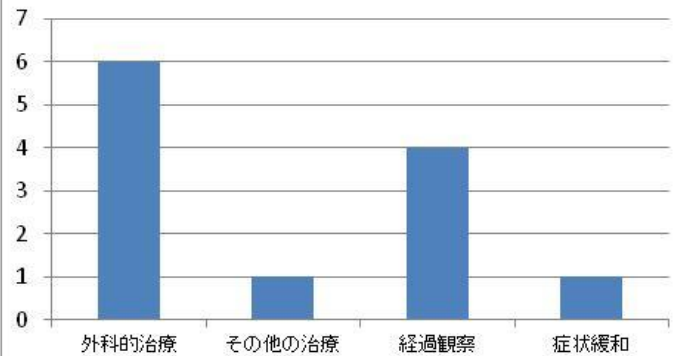


膀胱がんは、2016年症例から現在にかけて、病期0期の時点で内視鏡的治療を行うため、0期及び内視鏡的治療の件数が圧倒的に多い。2018年症例より病期不明が多い理由として、がん登録ルール上、「pTa」以外では「pTx(情報なし)」をつけることになっているため、結果として、病期不明になる。

肝がん 病期別初回治療

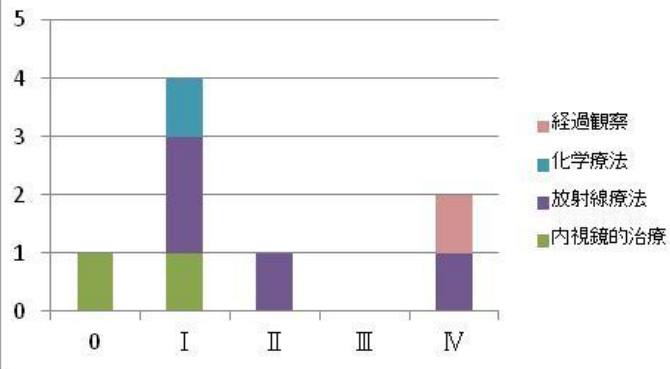


肝がん 治療件数

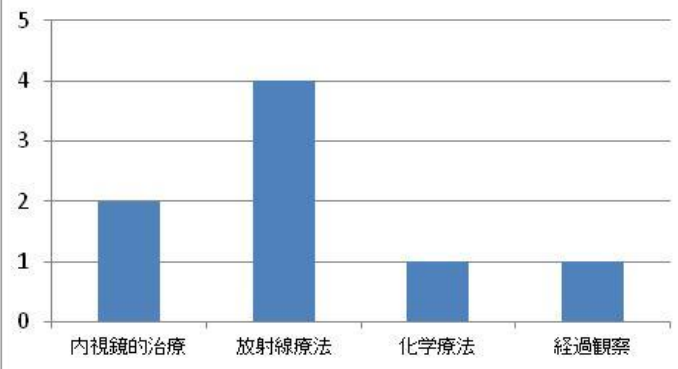


肝がんは2016年症例よりI期の件数が多く、治療件数は2017年症例に比べ外科的治療件数が増加している。

食道がん 病期別初回治療

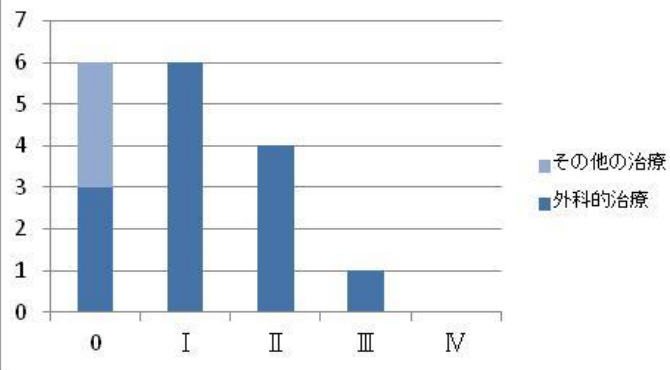


食道がん 治療件数

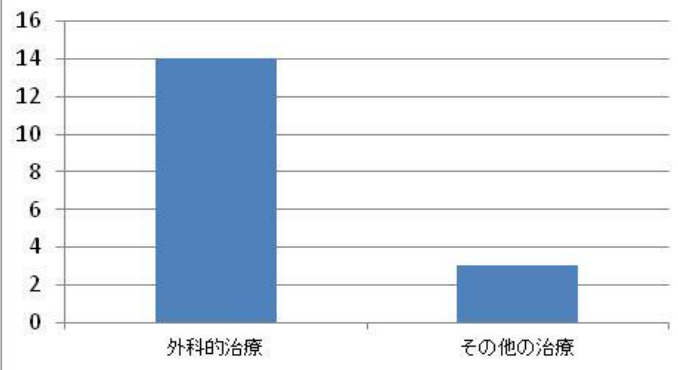


食道がんは、2016年症例より病期が低い段階から放射線療法を行っている。

皮膚がん 病期別初回治療



皮膚がん 治療件数



皮膚がんの登録件数は増加傾向であったが、上位10位以内に入っていなかった。2018年症例で初めて第10位に入った。